

学校関係者評価委員会の意見

少子高齢化の時代背景がある中、前年度は、少子化の煽りは、あまり受けない状況であったが、次年度、4月入園に向けての満3歳児の園児数が減少を示した。園の対応としては、少数での手厚い指導の充実の更なる推進と、その継続に力を注いだ。

意見内容は次の通りである。

- 園の教育方針に基づき、全教職員が情報交換を密にし、使命感に燃え、同一姿勢で真摯に課題追求に努めてきた。結果、幼児一人ひとりが個性を発揮し、いきいきと活動している姿を見ることができた。各種行事後の保護者のアンケートからも高評価を得ている。
- 情報公開（参観やホームページの充実、地域との交流等）を積極的に行い、保育活動の見える化を図ってきた。
- 未就園児保育（ひまわり組）を通して、満3歳児からの入園希望が、やや減少に転じた。少子化現象に加え、3歳未満の常時預かり施設への希望増加も考えられる。
- 公開保育での評価は「子どもたちのコミュニケーションがうまくとれており、のびのびと自由な発想で自己表現をしていた。素晴らしい夜空に浮かぶ花火が描かれ、よかった。」・「公開保育は、幼小の接続を進めていくうえでのよい刺激となっていると思う。」など参観者からも高評価を得ることができた。
- 年長児の子どもたちには、小学校との接続を見据えて、小学校の校内施設見学や授業見学、小学校高学年からの校内説明も受けたりした。結果、小学校での日々の生活への質問などが多く見られた。小学校での生活に希望を持った園児も多くいるようであるので、幼小間のハードルが低くなったと捉えることができた。
- 警察官による交通安全指導や消防士による火災避難訓練。また、地震・津波避難訓練での高所への避難（小学校校舎上階への避難）の体験など各種の訓練・体験を通して、命を守る大切さを再認識すると同時に命を守るスキルを習得した。
- 各種行事を通して、最後までがんばる姿や友達をいたわる姿、いろいろな楽器を上手に使いこなせるスキルや姿、作品展を通しての発想力のすばらしさや出来栄等、園児たちの素晴らしい力、底知れない能力に感服した。
- 各種行事に対して、保護者をはじめ近隣の学校関係者や地域の方々からも高評価を得ることができている。